令和6年度　小松市立高等学校　学校評価

重点事項		具体的取組	主担当	現　状	評価の観点	達成度判断基準
1	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に努め、確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。その際、ICT機器を有効に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。	1 **生徒の主体的に学習を進める態度を育むために、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を推進する。**	教務課 各学年	素直で真面目な生徒は多いが、授業において受け身の姿勢でいる傾向が見られる。自ら考える姿勢と積極的な取り組みを引き出せるような授業実践に向けて、より一層の工夫が必要である。	【満足度指標】 生徒が各教科・科目の授業に対して積極的に取り組もうと思っている。	**授業評価の質問10「この教科・科目に積極的に取り組もうと思える」における全体の平均値が** **A ３．６以上　B ３．55以上** **C ３．５以上　D ３．５未満**
		2 **「総合的な探究の時間」における個人発表やグループ発表、フィールドワーク等を通して、生徒の表現力を育成する。**	教務課	昨年度授業や総合的な探究の時間における個人発表やグループ発表を通して、話したり発表したりする力がついてきたと感じる生徒は、8割程度いる。グループ発表やフィールドワークを通して、生徒の表現力を伸ばしていく。	【満足度指標】 総合的な探究の時間において、主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長している。	**総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う（よくあてはまる、ややあてはまる）教員の割合が** **A ９０％以上　B ８０％以上** **C ６０％以上　D ６０％未満**
		3 **大学入学共通テストに対応できるように、1，2年生のうちに生徒の大学進学意識を向上させ、学力の定着を目指す。また、成績上位層から中間層の生徒を増やし伸ばすべく、模試分析に基づいた授業改善を行い、学力向上を目指す。**	進路 指導課 1学年 2学年	1年生では、進路希望を念頭に置いて文理選択できるよう指導するとともに、学力伸長に向けて継続的に努力するよう指導している。2年生では、具体的な目標を持たせ、様々な進路希望、学力層に応じた学習指導をしている。1，2年生で大学受験に対応できる基礎学力をつける必要がある。	【成果指標】 学年終了時までに組織的、系統的な指導によって学力が伸び、大学受験の基礎が築かれている。	**模試による国語・数学・英語の各偏差値が50以上の生徒数が** **国語：A 40人以上　B 35人以上** **C 30人以上　D 30人未満** **数学：A 30人以上　B 25人以上** **C 20人以上　D 20人未満** **英語：A 30人以上　B 25人以上** **C 20人以上　D 20人未満**
		4 **キャリア教育を通じて高い志を持たせるとともに、進路実現に向けて粘り強く学び続けるよう支援する。**	進路 指導課 3学年	ここ数年、大学進学希望者が増加傾向にある。コロナ禍を経て県内志向が強まっているが、全国を視野に入れて挑戦する姿勢を育てる必要がある。	【成果指標】 自らの生き方や将来に対して高い意識を持つ生徒が、授業や補習、個別指導等を通して学力を伸ばし、国公立大学に現役で合格している。	**国公立大学現役合格者数が** **A 20人以上** **B 15人以上** **C 10人以上** **D 10人未満**
2	グローバル社会に対応できる自己発信力を高める。特に英語によるコミュニケーション能力を育成し、英語力向上を図る。	1 **英検資格取得にむけて、受検級別に十分な対策をたてる必要がある。計画的に勉強に向えるよう、英検講座を実施し、2年次における実用英語技能検定や12月GTECのスコアアップを目指す。**	教務課 進路 指導課 英語科	1年次はGTECを2回、2年次は10月の実用英語技能検定と12月のGTECを受験し、生徒の資格取得に向けた英語スキルアップを低学年から行っている。生徒の進路実現に際しても英語の資格が有利に働くよう指導していきたい。	【成果指標】 実用英語技能検定およびGTECの受検を通して、2年次修了までに50％の生徒がCEFR　A2レベルに到達することを目標にして、五領域のスキルアップを目指す。	**2年次修了までにCEFRA2レベル以上の生徒が** **A　９０人以上** **B　７０人以上** **C　６０人以上** **D　６０人未満**
3	生徒一人ひとりの品格を高め、規範意識と社会性を身に付けさせるとともに、急速に変化する多様な社会に対応できる主体性を育む。	1 **品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。遅刻をなくすために、年間を通し職員による登校指導や生徒の個別指導を行う。**	生徒課	制服を正しく着こなす生徒は増えているが、まだ十分ではない。遅刻者の件数は減少傾向にあったが、昨年度は増加した。常習的に遅刻する生徒がいる。	【成果指標】 1日の生徒の遅刻者の平均人数から判断する。	**1日の生徒の遅刻者の平均人数が** **A 1人以下　B 3人以下** **C 5人以下　D 6人以上**
		2	生徒課		【満足度指標】 制服の着こなしに対する、教職員評価から判断する。	**「生徒は制服を正しく着ている」という項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員の割合が** **A 80％以上　B 70％以上** **C 60％以上　D 60％未満**
4	芸術コース及び部による地域貢献活動を積極的に行い、小松市民に愛される学校をめざす。	1 **部活動をさらに活性化し、校内外の発表やボランティア活動等に積極的に取り組む。**	生徒課	部活動の発表やボランティアなどの活動は再開されており、積極的に活動に取り組んでいる。	【努力指標】 部の発表や活動を通して生徒の発信力が養われる。	**すべての部による発表やボランティア活動等の実施回数がのべ** **A 35回以上　B 30回以上** **C 20回以上　D 20回未満**
		2 **芸術コース入学希望者の確保のために、本校専攻生による出身中学校訪問・部活指導等、生徒主体の情宣活動を行うとともに、教員による体験入学希望者確保のため中学校訪問を行う。**	芸術 コース	感染症対策緩和を受け、多くの行事が戻ってきた今、より積極的に対外行事や地域貢献活動、中学校訪問に取り組むことにより、芸術コースの魅力を世に発信していきたい。	【努力指標】 地域貢献活動や中学校訪問を通して、芸術コースからの発信力を高め、中学生の芸術コースに対する興味関心が向上している。	**11月の芸術コース体験入学参加者数が** **A 60名以上** **B 59～50名** **C 49～40名** **D 39名以下**
5	教職員の協働する力を高め、校務の効率化を図り、心身ともに健康な職場作りを行う。	1 **超過勤務の時間を減らし、職員の心身の健康を守り、よりよい教育活動を行う基礎を確立する。そのために、会議の数を最小限に止め、またICT機器の有効活用に努める。**	教頭	昨年度の超過勤務（80時間）を越えた職員の延べ人数は、年間で合計6名であった。大部分の職員はワークアンドライフバランスに努めているが、部活動業務などで超過勤務となっている。	【努力指標】 「定時退庁日」「ノー残業デー」をはじめ、日頃から業務の効率化を意識し、勤務時間内で業務が終了するよう努力する。	**超過勤務80時間を越える職員の割合が** **A 2％未満** **B 2～4％** **C 4～6％** **D 6％以上**